8月6日　ヤコブとエサウ　聖書研究

テキスト　創世記 27章1〜40節

〈エサウとヤコブの誕生〉

双子の兄弟エサウとヤコブは、イサクが六十歳のときに生まれた。彼らの誕生は主がリベカの祈りに答えてくださった結果であったが、主は兄(エサウ）が弟（ヤコブ）に仕えることもリベカに予告しておられた (25:19〜26)。そしてイサクはエサウを愛し、リベカはヤコブを愛した (25:28)。

〈祝福のゆくえ〉

高齢になったイサクは、長子であるエサウに祝福を与えようとする。祝福は一人に対して、しかも一度与えられれば取り消されないものとされている。主はイサクに対し、その子孫によって地上の諸国民はすべて祝福を得る、と約束された (26:4)。イサクは長子であるエサウ一人に祝福を与えようとするが、後にヤコブは十二人の息子たちそれぞれにふさわしい祝福を与えている (49:28)。

イサクは、リベカへの主の約束を聞いていたであろうが、祝福自体は長子であり自分の愛するエサウに与えたいと願ったのであろう。逆にリベカは、兄が弟に仕えるという主の約束があったので、祝福も弟が受けるものという考えから、何とかして愛するヤコブが祝福を受けられるように企んだと思われる。アブラハムとサラの場合もそうであったが、主に従う夫婦の足並みが揃わない時に、家庭がどのような状況になるか、という現実を私たちは見せ付けられる。

リベカもヤコブも、もしイサクにこのことがわかれば、祝福どころか呪いを受けることを承知の上でこの計画を実行した。

イサクは、一度は本当にエサウが来たのかどうかを疑いながらもついにヤコブに祝福を与える。アブラハムに与えられた祝福の約束が、イサクへ、そして次の者へと伝えられていくことになるが、それは、だまし取るという仕方で行われた。主のご計画は必ず実現するが、それが実現してゆくに当たって、実際に行動する人間の様々な思惑が絡み合い、策略まで用いて息子と妻が父であり夫である者をだますということすら起こってきた。

ヤコブはエサウの恨みを買い、逃亡生活に入らなければならなくなってしまう（28章以下)。

だますこと自体は悪であるがゆえに、ヤコブはその報いを受ける。リベカもヤコブを送り出さなければならなかった。この後、ヤコブとリベカの再会の記事はない。それぞれ、この世の生活では離別の悲しみと、故郷を離れて人に仕えるという労苦を忍ばなければならなかった。そして自分もラバンにだまされるという経験をすることになった (29:25)。

しかし、イサクは、ヤコブがだまし取った祝福だから無効であるとはしなかったし、主ご自身も、ヤコブを祝福を受け継ぐ者として認められた (28:14)。故郷を旅立ったヤコブに対して、主は夢の中でヤコブに祝福の約束をお与えになり、どこにいても共にいることと、再び主が故郷に連れ帰ることを約束してくださった (28:13〜15)。

イサクは、祝福を求めるエサウに対して、その後の歩みの厳しさを予告する (27:39, 40)。しかし、後にヤコブと再会したエサウは、物質的経済的には恵まれていた (33:9)。ヘブライ書は、イサクはエサウのためにも祝福を祈ったと記す (11:20)。しかしヤコブの受けた祝福は単に物質的なものではなく、霊的なものであった。エサウは「ただ一杯の食物のために長子の権利を譲り渡した」者であり、彼のようなみだらな俗悪な者にならないようにと読者に警告している（同12:16, 17)。エサウ自身も自分の行いの報いを受けたのであった。　(久保田証一)

8月6日　ヤコブとエサウ　説教展開例

テキスト　27章1〜40節
参照カテキズム　子どもカテキズム 問13,14,17〜19
ウェストミンスター小教理 問11
ウェストミンスター信仰告白 第5章

〔単元のねらい〕

父のイサクに愛され、父の命令に従い、父の祝福を得ようとしている兄エサウ。一方、父の祝福をだまし取る弟ヤコブ。人間的な感情において語れば、弟ヤコブの卑怯さと兄エサウへの同情となります。

しかし、この箇所を説教するにあたって忘れてはならないことは、主の計り知れないご計画と、歴史に現れる摂理の御業です。そして主のご計画は、私たちにとって祝福に満ちたものです。主の秘められた愛が忘れられてはなりません。

また、エサウへの同情が語られる時、エサウの不信仰（ヘブライ12章14〜17節を参照）も確認しなければなりません。主が求めておられることは、神である主を愛することと、隣人を自分自身のように愛することの両方を満たすことであり、信仰によって生きることが疎かになってはならないのです。

「一番大切なもの」

年老いたアブラハムさんに、ようやく与えられたイサクさんでしたが、そのイサクさんも、40歳にしてリベカさんと結婚しました（25:20）。そして60歳にして初めての子ども、それも双子の兄弟が与えられていました（25:26）。兄の名前はエサウ、弟の名前はヤコブです。生まれてくる時、弟は兄のかかと（アケブ）をつかんで、先に出てきたため「ヤコブ（かかと）」と名付けられたのです。

二人は大人になり、兄エサウさんは狩人となり、ヤコブは家の周りで仕事をしていました(25:27)。父イサクは狩りの獲物が大好きなため兄エサウを愛していましたが、母リベカは弟ヤコブを愛していました。

ある日のこと、エサウが狩りをして、疲れきって野原から帰って来ました。お腹がすいてペコペコです。エサウが家に近づくと、美味しそうなスープの匂いがします。ヤコブが赤いスープをつくっていたのです。エサウはヤコブに言います。「ヤコブ、もうお腹がすいて死にそうだよ。そのスープを食べさせてくれ」。すると、ヤコブはこの時とばかりに、「いいですよ。けれども一つ条件があります。長子の権利を譲ってください」。「いいよ、今はお腹がすいていて、死にそうなんだ。そんなもの譲ってやる」。するとヤコブは、「では、今すぐ誓ってください」と迫り、兄エサウはすぐに誓い、長子の権利を弟ヤコブに譲ってしまいました（25:27〜34）。

さて、それからまた年月がたち、父イサクも年をとり、目がかすんで見えなくなっていました。そのため、イサクは、今のうちにアブラハムから与えられた神さまの祝福を、兄エサウに受け継がせようと思いました。そのため、イサクはエサウを呼び、エサウが取ってきた獲物で美味しい料理を食べさせて欲しいと願い、その後、祝福を与えることを約束しました。

この話を聞いていたリベカは、ヤコブが可愛く、ヤコブがイサクから祝福を得るべきであると思い、イサクをだますことにしました。はじめヤコブは、エサウとの違いがイサクに分かり、逆に呪われるのではないかと怖じ気づきます。しかし、それでもヤコブは、リベカに言われるまま、エサウを装い、子山羊の毛皮を肌に付けて、イサクのところに行きます。

そしてヤコブは、エサウの声色を真似して、「わたしのお父さん」と呼びかけます。イサクは、声を聞いても、誰なのか分かりません。「誰だ、お前は」。ヤコブは答えます。「長男のエサウです」。イサクは信じられません。イサクはエサウに狩りに行き、獲物を取ってくるように命じましたが、非常に早かったからであり、エサウの声とは少し違うかなと思ったのです。そしてイサクは、直接触るとエサウかどうか分かるはずだと思い、「近寄りなさい。わたしの子に触って、本当にお前が息子のエサウかどうか、確かめたい」と語ります。目が見えなくなっていたイサクは、子山羊の毛皮を着けているヤコブに気がつかず、エサウだと思い、もう一度「お前は本当にわたしの子エサウなのだな」と確認をして、ヤコブが持ってきた料理を食べ、父イサクは弟ヤコブに祝福を与えました。リベカとヤコブは、まんまとイサクをだますことに成功したのです。

さて、弟ヤコブが父イサクから祝福を受けるとすぐに、兄エサウが狩りから帰って来て、料理を作り、イサクのところに持ってきました。イサクは非常に驚きました。体を震わせます。ヤコブにだまされたことに気がついたのです。神さまから与えられた祝福を、すでにヤコブに与えたのであり、取り消すことはできませんし、あらためてエサウを祝福することもできないのです。エサウは「わたしにも祝福をください」と願いますが、それはできません。エサウは、ヤコブに、最初は長子の権利が奪われ、今度は父からの祝福が横取りされました。「なぜ？ おかしい。ヤコブは卑怯だ」と思ったことでしょう。

みなさんも、神さまはなぜ、このようなことをお許しになるのだろうかと思うでしょう。人を騙すことは、神さまが禁じておられます。そのため、父からの祝福を受けたヤコブでしたが、自分の罪のために、長い間、エサウから逃げて、苦しまなければなりませんでした。

けれども、エサウさんが正しかったのかを考えなければなりません。神さまは、私たちを救ってくださり、神の子としてくださいました。そして、神さまは、神の子としてふさわしく生きることを求めておられます。救い主である神さまに感謝し、礼拝すること、そして隣人を愛することです。どちらもが神さまが求めておられることであり、大切なことです。しかしエサウは、神さまから与えられた長子の権利をおろそかにして、お腹がすいただけで、弟に譲ってしまいました。このことは、神さまの御前に大きな罪です。このことがエサウは理解できなかったのです。

一方、ヤコブのしたことも許されませんが、長子の権利を得たい、お父さんからの祝福を得たいという熱心な思いは、神さまからの恵みを大切にしようという思いから出てきています。神さまによって愛され、神さまによって救われているみんなも、神さまを礼拝し、神さまによる恵みをいっぱいいただくように、熱い思いを持つことが、求められています。

神さまは、このような人間の悪いたくらみをも用いて、神さまの御業を成し遂げられます。主イエス・キリストが、私たちの罪の償いのため、十字架にお架かりくださった。それは、ユダヤ人の悪いたくらみによってであったことを知っているでしょう。けれども、そのたくらみをも用いて、神さまは御業を成し遂げられました。このように、神さまの御計画が実現することを「摂理」と言います。私たちにとってはなぜだろうと思われることであっても、神さまにとってはもっとも素晴らしいこととして、実現していきます。

神さまによって愛され、神さまの子として救われている私たちは、神さまを愛し礼拝すること、そして隣人を愛することが求められています。目先の楽しみに心が揺さぶられることなく、私たちにとって本当の喜びである神さまに愛されるために、神さまを礼拝し、隣人を愛し続けましょう。

（辻　幸宏）

〔今週の暗唱聖句〕　ヘブライ人への手紙 12章14節

すべての人との平和を、また聖なる生活を追い求めなさい。

聖なる生活を抜きにして、だれも主を見ることはできません。

8月6日　ヤコブとエサウ　幼稚科

〈ねらい〉

神さまの御心が実現することを知る。

〈暗唱聖句〉

リベカさんは、「主の御心を尋ねるために出かけた」。

〈展開例〉

①イサクさんは大きくなってリベカさんと結婚しました。二人にはなかなか赤ちゃんができませんでしたが、お祈りすると双子の赤ちゃんが与えられました。リベカはお腹の中の赤ちゃんのことで、神さまの御心を尋ねるために出かけました。そんなリベカさんに神さまは言われました。「この二人は争うことになる。そして兄が弟に仕えるようになる」。これが神さまの御心でした。

②さて、二人のうち、赤くて全身が毛むくじゃらの兄をエサウと名付け、兄のかかとをつかんで出てきた弟をヤコブと名付けました。そして二人は成長し、エサウは野原で狩人になり、ヤコブは天幕の周りの畑で働くようになりました。

③ある日、ヤコブが煮物を料理していると、エサウが疲れて帰ってきて言いました。「お腹がすいて死にそうだ。それを食べさせてくれ」。「だったら、お兄さんガ受け継ぐはずの神さまから祝福を受ける権利を譲ってください」。エサウはあまりにもお腹がすいていたので、そんな権利くらいどうでも良いやと思いました。そしてパンとレンズ豆をもらう代わりに、神さまの祝福の権利をヤコブに譲ってしまいました。

④またエサウは、神さまのことを知らない人と結婚しお父さんとお母さんを悩ましました。

⑤やがてイサクさんは年をとったので、兄のヤコブに神さまの祝福を譲ろうと思いました。「どうか私のためにおいしい料理を作っておくれ。それを食べたら、お前に神さまの祝福を譲ろう」。エサウは喜んで狩りに行きました。

⑥さて、それを聞いていた母のリベカさんはこまりました。エサウは神さまのことを軽く考えているので、きっと家族に災いをもたらすに違いない。そこで弟のヤコブに、お兄さんの代わりに神さまの祝福を受けるように言い、おいしい料理とエサウの着物を渡し、毛むくじゃらの毛の代わりに毛皮をつけさせてイサクのもとに送り出しました。

⑦リベカさんの計画通りに、イサクさんは、エサウだと思って神さまの祝福をヤコブに与えました。ヤコブが立ち去るとすぐ、エサウが帰ってきましたが、もうすでに後のまつりです。エサウには祝福は残っていませんでした。エサウは悔しがって、ヤコブを憎み、いつか必ず殺してやるとまで心の中で思うようになりました。イサクさんは言いました。「お前はこれから暴力に頼っていくだろう。しかしやがてお前は弟に仕えるようになるだろう」。

⑧お兄さんの怒りを知ったヤコブは、すぐに逃げることにしました。その道はとても厳しい道です。でも神さまが用意してくださった道を、神さまの祝福と一緒に歩んで生きます。

〈お祈り〉

不思議な方法でヤコブに祝福を与えられた神さま。あなたの御心だけが実現します。どうか私たちの歩みも神さまの御心にかないますように。アーメン。

8月6日　ヤコブとエサウ　小学科下級

〈ねらい〉

神様には、私たちには知り尽くすことができないほど大きな救いのご計画があり、そのご計画は神様の大きな愛の中で実行されることを信じる。

〈はじめに〉

暑い毎日が続きます。子どもたちは元気に日曜学校に来ているでしょうか。休みが続いている子どもはいないでしょうか。来ている子どもたちと一緒に、分級の少しの時間を割いて、カード・ハガキを書いてみてはいかがでしょう。旅行中のお友だち、病気のお友だち、家庭の事情で来られないお友だち、様々な事情の中に置かれている子どもたちを祈りの中で覚えましょう。

〈御言葉に聴きましょう〉

①年をとり、目が見えなくなってきたおじいさんの名前は何ですか。

②上の息子の名前は何ですか。

③エソウの弟の名前は何ですか。

④お母さんのリベカはエソウに「お父さんのところにお父さんの大好きな料理を持っていきなさい」と言いました。エソウは何と答えましたか。

〈展開例〉

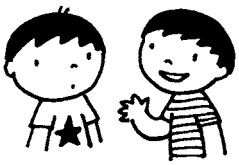
イサクはリベカと結婚しました。そして双子の子どもが生まれました。お兄さんのエソウは元気で野原をかけめぐって、動物を捕まえるのが大好きでした。弟のヤコブは優しくて畑のお仕事や、羊のお世話をするのが大好きでした。お父さんのイサクはエソウを、お母さんのリベカはヤコブをかわいがりました。

イサクがすっかり、おじいさんになったある日、イサクは、エソウを呼んで、「動物をとってきて、私の好きな料理を作っておくれ。私が死ぬ前にあなたを祝福しよう」と言いました。それを聞いた、お母さんのリベカはこっそりをとヤコブに言いました。「私がおいしい料理を作るので、エソウになりすまして、持って行きなさい」。ヤコブはエソウのように毛深くみせるために腕や首に動物の毛皮を巻きつけて、お母さんの言うとおりにしました。お父さんはもう目が見えないので、ヤコブの腕を触って、エソウだと思ってしまって、ヤコブを祝福しました。ヤコブは長子の権利を自分のものにしてしまいました。

リベカやヤコブはイサクにうそをつきました。人をだますことは神様は喜ばれません。でも神様は人のわるだくみや、神様に喜ばれない思いや行いをも、神様の大きなご計画に用いられることに私たちは驚きます。私たちも生まれる前から、神様のご計画の中にあることを覚えましょう。神様は私たち一人ひとりを用いて、神様の救いのご計画を進めていかれます。私たちの周りにはまだ神様を知らない人がたくさんいます。神様が私たちを祝福してくださっていると同じように、神様を知らないお友だちや家族が祝福をくださる神様を知ることが出来るために私たちが用いられますように祈りましょう。

〈お祈り〉

今週も神様の祝福の中で歩めますように。



8月6日　ヤコブとエサウ　小学科上級

〈ねらい〉

一連の族長物語の中に、現在の私たちの姿と重なり合う、悲惨に満ちた罪人の生を見抜く。

〈展開例〉

(第41回全国学生会修養会における吉田隆先生の講演レジュメより、多く参考にさせていただきました。)

イサクは神様の奇しい導きによってリベカと結ばれました。そのような麗しい結婚をしたはずなのに、その夫婦が築いた家庭は、まるで昼ドラマでも見ているかのように、ドロドロの家庭崩壊劇でしたね。(説教において示された聖書物語をなぞるだけで十分でしょう)。

こんなのが、神様を愛するクリスチャンホームなの!? って言いたくなりますね。うちの家はこんなことないよ、だって神様を信じる人たちの家だもん。お父さんだって、お母さんだって、ぼくだって、わたしだって、こんなにひどくない!! 本当にその通りならすばらしいですね。でも本当にそうでしょうか。日曜日だけは、教会でいいかっこうしてるけど、おうちに帰ると実は……なんてことはありませんか？ パパとママが夫婦ゲンカしてたり、ぼくたちわたしたちも兄弟ゲンカしたり。あれ？ 考えてみると、なんだかヤコブの家とそっくりだなと思う時もあるのではないでしょうか。

○イサク

お父さんのイサクは、食い物とスポーツのことばかりに夢中の典型的な中年オヤジで、神様を愛し、家族を愛し、父親として立派に子どもたちを育て上げることがおろそかだったように思います。家族崩壊の根源は、このあたりにあるようです。

○リベカ

リベカは、夫に愛想をつかして、息子（ヤコブ）のことばかり溺愛して、息子だけが生きがいになっています。こういうお母さんも、今多いですね。息子を愛していると言いながら、実際は自分のエゴイズムを満たしたいだけ。こういう子への歪んだ愛から、引きこもり、家庭内暴力などの悲劇に陥ることが、残念ながら多いようです。(子どもたちの中には、実際にこういう問題に直面している方もいるかもしれません。十分な配慮をお願いします。)

○エサウ

単純細胞のマッチョなエサウは、目の前の喜びだけを追いかける消費型の人間とも言えます。人生を根源的なところで支えてくれる神様の愛と祝福よりも、目の前にある快楽のほうを大事にしてしまう。ゲームやケイタイなどで、日々の快楽を追いかけることに夢中で、またそうしないと置いていかれるという悲しい危機感に追われてしまっている、現代っ子に通じます。

○ヤコブ

ずるがしこいマザコン息子のヤコブは、エゴイズムに満ちた母親に育てられて、同様におぞましいまでに自己中心です。目的の実現のためには手段を選ばず、神の喜ばれないような嘘まで平気でつきます。「そこまでして神の祝福を自分のものにしたい」、それは神への熱心と言えないことはないでしょう。でも、歪んだ熱心です。兄弟を愛することのない者は、本当に神を愛したことにはなりません（ヨハネ一4:20)。

〈祈り〉

神様、ヤコブの家とそっくりな私たちの罪をお赦しください。そんな私たちの愚かさまで用いられて、救いのご計画を成し遂げられるあなたの御業の不思議に驚き、あなたを賛美します。

8月6日　ヤコブとエサウ　中学科

〈ねらい〉

神の摂理の内にある人の自由と責任を覚える。

〈展開例〉

①今日は「神様の摂理」についてのお話。聖書は、ヤコブとエサウの話をとおして、神様は世界に起こる様々なことを、一つの計画のもとに、実現される（摂理）ということを教えている。今日の話の登場人物たち。エサウは神様からの恵みを軽んじ、ヤコブは兄の恵みをかすめ取り、リベカはヤコブと共謀し、イサクは祝福の相手を自分勝手に変更し、と皆、ダメさ丸出しの人たちであり、スッキリしない人間関係が描かれる。だけど、これは信仰者の集まりを示すリアルな人間模様ではないだろうか？

②皆は、神様が契約を守られるということをアブラハム物語から続けて聞いてきた。神様が人間と愛し合って生きる世界、人間同士もまた愛し合う世界。そんな世界を目指して、神様は皆を祝福する計画を実現させていく。でも、それは一人ひとりの個性とか特徴を無視して魔法のように実現するんじゃない。神様は、人間が善いことをしようが、悪いことをしようが、そうしたものも、ひっくるめてリアルな人間模様が無くならないように計画を立てておられる。人間の特徴である自由を壊さないで、神様は計画を実現させる。もし、正しい人や方法しか神様が用いられないとしたら、世界で正しい方はイエス様だけ。皆と神様との接点はゼロになってしまう。神様は人間が悪い思いを抱くことも知った上で、神様のスバラシサを見せてくれる。

③「なーんだ。じゃあ俺らは自由にやってればいいんだ」。こんな風に思うかもしれない。ある意味正解。君たちは自由に生きて良い。ただ、自由というものは責任を伴う。「最後は神様が良いようにしてくれる。だから結果オーライ」とはならない。もし君たちが「自由」を「好き勝手」と勘違いして、神様が嫌がる、神様との付き合いを無視した、お金や財産だけを求める人生を生きたとする。君の仕事っぷりで社会は潤い、社会の福祉事業で弱い人たちが助けられることが起こるかもしれない。君の行動で誰かが助かるという善い結果が生まれることはあり得る。だけど、君が神様を無視した事実は変わらない。悪いことの結果に善いことが起きたとしても、それは神様のお手柄。君に突きつけられるのは、そのために悪いことを行ったという事実と責任。

④神様の計画は君たちがどんな失敗をしたとしても、パーにはならない。だから君たちは「神様のために何かをしよう！　誰かのために何かをしよう！」と思うとき、失敗を恐れなくてよい。皆が失敗しても、神様の計画がこけることは無い。だけど同時に、できる限り神様が喜ばれるような方法を考えて欲しい。神様が喜ばれる道を気持ちよく選び取ることができること。この選択の自由こそ、聖書の示す自由です。

⑤ヤコブは神様の恵みを求めた。これは見習いたい心意気。だけど、その方法は褒められたものじゃない。せっかく神様を求めるのならば、イエス様がほほ笑んでくださるような、そんな仕方で、神様が世界中を祝福されるという、壮大な神様の御計画に参加してもらいたい。

〈祈り〉

世界を祝福へと導かれる神様。あなたの悲しむ仕方ではなく、あなたの喜ばれる仕方で、あなたの祝福を受け、それを広げることができるようにしてください。アーメン。